

## パネル発表「引き継ごう命のバトン」

### －飼育活動を次学年へ引き継ぐまでの実践報告－

丸山 浩昭

#### 1 はじめに

保谷第二小学校では、委員会活動としてではなく、総合的な学習の一環として4年生全員が飼育活動を行っている。飼育小屋には4羽のチャボと2把のウサギを飼育している。動物たちが健康に生活できるように、エサやりや掃除は毎日欠かさない。飼育当番は、3クラスが1ヶ月交代で行っている。クラスの中でも飼育当番の日を決め、順番に取り組み、飼育ができる日をととても楽しみにしている。3年生に話を聞くと、飼育を楽しみにしている子供がとても多い。また、5年生は飼育活動の担当が終わったにもかかわらず、飼育小屋に立ち寄って動物たちに声掛けをしたり、休日の飼育活動を手伝ったりしてくれている。本校での飼育活動が円滑に次学年に引き継がれていることを感じる。

#### 2 日常の飼育活動について

飼育当番の子供たちは他の子より早めに登校する。ランドセルを教室に置いて飼育小屋へと向かい、お腹を空かせている動物たちのために朝ご飯を用意し、簡単な小屋の清掃を行う。朝の飼育活動を終えた子供たちは1時間目に間に合うように教室へ戻り授業の用意をする。



飼育小屋の掃除の様子

午後の飼育活動は給食終了後、掃除の時間に行う。長靴に履き替えた子供たちは「エサ切り」と「小屋掃除」を分担して行う。エサは給食で出た野菜の残菜を動物たちが食べやすい大きさに切り、チャボフードやラビットフードに混ぜて与える。チャボの野菜は「みじん切り」うさぎのエサは「ざく切り」にし、動物たちの気持ちを考えてエサを用意する。

小屋の掃除は主にフンとりとエサの食べ残し

をきれいにする。最初は「フンが汚い」「臭い」などと言っている子供たちが多かったが、動物たちが気持ちよく過ごせるように掃除に取り組んでいくうちに、気にすることなく掃除に励むことができるようになってきている。

午後の飼育活動を終えた子供たちは教室へ戻り、飼育日誌を書く。飼育活動を行ったメンバーや今日の動物の様子を記録し、飼育活動の足跡を残していく。これで、一日の飼育活動が終了となる。

#### 3 休日の飼育活動について

本校では、「休日の親子飼育当番」を募り、毎日欠かさず動物たちの世話をしている。教師のいない状況で安全面を考え、事前に保護者の方々にお知らせを配布し、子供と一緒に保護者にも参加を依頼する。休日の朝の10時に来校し、親子一緒に飼育活動を行っていただいている。いつもの飼育方法と同じやり方で飼育活動に取り組んでいるが、エサは給食がないため家庭で余った野菜などを持ってきていただいている。特に夏休みや冬休みなど長期間給食がない時期には家庭の協力がなくては成り立たない。長期休業中の飼育活動も、平日は教員が出勤しているため子供だけで飼育活動を行うが、休日は親子飼育を協力していただいている。家庭での協力があるからこそ、学校でも安心して飼育活動に取り組むことができている。保護者もとても協力的であり、ありがたく感じている。

#### 4 獣医師による「ふれあい授業」

毎日動物の世話をしていると、動物の生体や世話の仕方などについて疑問が出てくる。調べ学習だけでは解決しない。その疑問を獣医師の先生に聞く機会を設けている。地域の獣医師の先生を招いての「ふれあい授業」である。

平成25年度は6月と9月に「飼育動物ふれあい授業」を設定し、獣医師の先生から動物の抱き方など基本的な「動物との関わり方」の話をしていただいたり、動物の心臓の音を聴かせていただいたりした。そして、日々の飼育活動で感じた疑問などを質問した。エサの種類や、



08-02

飼育小屋の環境について、共通理解できるよい機会となった。専門家である獣医師の先生から直接指導していただけるので、子供たちの学びはさらに深いものとなっている。

## 5 引き継ぎ集会について

本校では4年生に進級してすぐの4月から飼育活動に取り組む。これができるのは、3月のうちに4年生から「飼育引き継ぎ集会」で飼育の仕方を教えてもらえるからだ。そして、引き継ぎ集会で学んだことを生かし、来年度に向けて4年生が3年生に飼育活動を教えながら一緒に行う。いわゆる見習い実習期間である。最初はエサの切り方や掃除の仕方に戸惑う3年生も、徐々に慣れていく。この経験があるからこそ、4月から安心して飼育活動を行うことができるのである。

4年生が主体となって行う引き継ぎ集会は、以下のような内容を計画し、3年生に伝える。

- ①プロジェクターを用いての動物紹介
- ②飼育活動のやり方を劇化して演じる
- ③えさやりの仕方、掃除の仕方、動物とのふれあいの仕方についてのコーナーを設け、体験させる
- ④獣医師の先生のお話

これらの内容は飼育活動で欠かすことができない大事なものであり、4年生は3年生に丁寧に教える。

08-03

舞台上で引き継ぎ集会の発表

4年生は、飼育活動に取り組みながら調べ学習を進め、「引き継ごう命のバトン」というテーマを念頭に2月にある引き継ぎ集会のための準備をしていく。

総合的な学習の時間では、飼育活動をしていて更に知りたいことや疑問について日常的に観察をしたり、書籍やインターネットで調べ学習をしたりして課題を解決していく。国語科の説明文の学習では、子供たちは2つの物事を比べて説明する対比と、写真や図と文章を使って対応させながら説明していく方法を学習し、この手法を生かして、来年度の4年生のために「飼育活動まるわかりブック」を作成する。学級活動の時間の中で、飼育当番の確認や飼育に取り組む時間などについてクラスで話し合いを重ねていく。

## 7 1年生との交流

自分たちが取り組んでいる飼育活動を他学年にもわかってもらうために、毎年3学期には1年生との「飼育動物ふれあい教室」を行う。1年生にわかりやすく動物たちの性格や特徴を紹介したり、飼育活動の様子を劇で演じたり、動物クイズを出したりするなど楽しい交流会にしている。今年度は10月から1年生が「ウサチャボ当番」として一人1回ずつ飼育体験をしている。1年生の子供たちに人気なのは、やはりウサギである。頭や体をなでたり、エサをあげたりして、動物とのふれあいを楽しんでいる。

08-04

教室内で発表

## 8 まとめ

「飼育活動は大変だ」という話をよく聞く。確かに衛生面のことや、かわいがっていた動物が死んだ時の対応など、頭を抱えてしまいそうな問題が起きることがある。しかし、それにも勝る喜びがある。子供たちが動物たちと楽しそうにふれあっていたり、汚い掃除でも嫌な顔ひとつせず真剣なまなざしで取り組んだりしている姿を見ると、飼育活動の素晴らしさを感じる。そして、この活動が代々受け継がれていく中に自分たちがいるという誇りを本校の子供たちが感じていることがなによりの宝であると感じている。

(西東京市立保谷第二小学校教諭)

## 6 学習の進め方